8月4日(土) 鮎まつり 花火大会

厚木駅周辺で交通規制実施

午後5時から10時まで

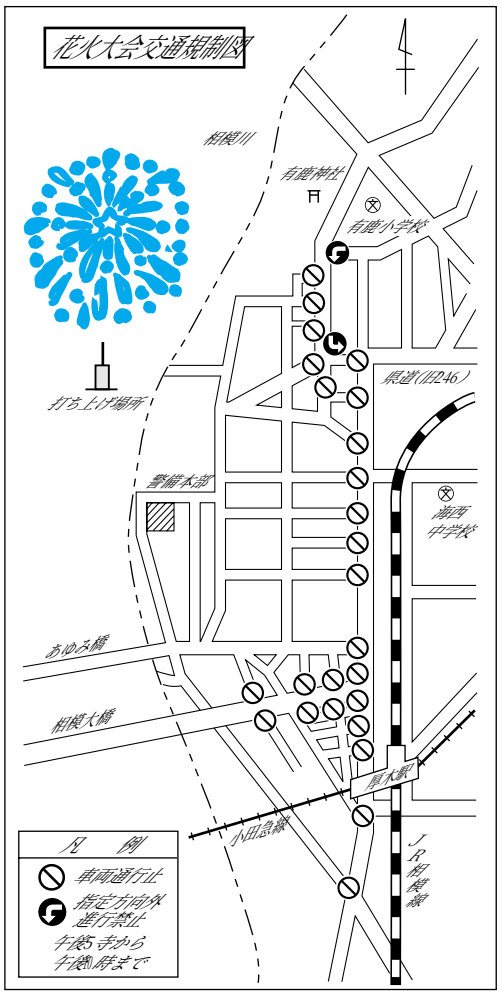
あつぎ鮎まつり花火大会が、8月4日（土）午後7時から9時まで相模川・中津川・小鮎川の合流点で実施されます。

これに伴い、厚木駅周辺が午後5時から10時まで交通規制されますので、ご注意ください（規制個所は左図参照）。

当日、周辺道路は混雑が予想されますので、お出かけには電車・バスをご利用ください。

なお、悪天候により実施できない場合は、5日（日）に順延されます。

問　海老名警察署交通課（☎232・0110）または環境保全課（内534）。



香川寿雄行政相談委員が総務大臣表彰受賞

今年は、行政相談委員制度の創設40周年です。これを記念して、6月18日、東京国際フォーラムで「行政相談委員制度40周年記念式典」が開催されました。この式典で、香川寿雄さん（河原口在住）＝写真＝が総務大臣表彰を受賞しました。

これは、香川さんが昭和59年に行政相談委員に委嘱されて以来、温厚な人柄と豊富な知識・経験で、永年にわたって行政と市民とのパイプ役を努められていることや、行政に対する苦情や要望などの相談を受けて解決に努められたことで、行政運営の改善を促し、行政相談委員制度の周知や利用の促進に寄与されたことによるものです。

「登記用固定資産評価証明書」の交付申請方法が変わりました

市で発行する不動産登記に必要な「登記用固定資産評価証明書（価格通知＝無料）」の交付申請については、横浜地方法務局大和出張所発行の「固定資産評価証明交付依頼書」の提出が必要です（左の見本参照）。

なお、「固定資産評価証明交付依頼書」の提出のない方には、固定資産評価証明書（有料）を交付しますが、所有者以外の方が交付申請する場合は、所有者からの委任状が必要となります。

また、委任を受けた方は、受任者本人であることが確認ができる証明類（免許証、身分証明書、社員証等）をお持ちください。

問　資産税課（内354）。

『固定資産評価証明交付依頼書』見本

固定資産評価証明交付依頼書(例)

海老名市長殿

登記申請人の住所氏名　神奈川県海老名市　海老名市部　175番地の1

土地又は家屋の所在地	家屋番号	地目または種類	地積または床面積		所有者	備考
海老名市有鹿字小屋175番地1		宅地	200	㎡	海老名市部	
海老名市有鹿字小屋175番地1	175番1	居宅	80	㎡	海老名市部	
				㎡		
				㎡		
				㎡		

備考　不動産登記申請のため

上記資産の評価証明書を交付願います。

平成　年　月　日

横浜地方法務局大和出張所　登記官　○○○○　印

※交付依頼書には、地番・地目・地積又は床面積・所有者を正確に記入することになります。

主な証明書の種類	窓口	申請に必要なもの	手数料
課税(所得)証明	市民税課	代理人の場合は原則として委任状などの同意書が必要です。(同居の親族であれば必要ありません)・印鑑	1件につき300円
納税証明		代理人の場合は原則として委任状・印鑑	
所在証明		印鑑	
車検用軽自動車納税証明			無料
評価証明	資産税課	代理人の場合は原則として委任状・印鑑	1件につき300円
公課証明			
名寄帳			
所有証明		印鑑	

証明書等の発行について

課税（所得）証明・納税証明・評価証明・固定資産名寄帳閲覧が必要な方は、本人が印鑑と手数料を持参のうえ市民税課または資産税課へ申し出てください。代理人による申請は、本人が自署、押印した委任の旨を証明する文書（委任状など）と代理人の印鑑が必要です（上表参照）。

問　市民税課（内341）・資産税課（内354）。

市営住宅運営審議委員を公募

市政参加・発展的ご意見を

市では、公営住宅法に基づく市営住宅の建設・管理計画の円滑な運営を図るため、市営住宅運営審議会を設置し、市長の諮問に応じて調査審議を行っていますが、今回その審議委員を募集します。

▽応募資格　次の事項に該当する方　①市内に在住の20歳以上の方　②市営住宅の運営に対し、発展的な意見をお持ちの方　③年3回程度開催（平日）の会議に出席できる方　※公務員など公職にある方を除く　▽募集人数　1人（選考による）　▽任期　11月1日から平成15年10月30日まで　▽報酬　会議出席1回につき8700円　▽応募方法　市営住宅または応募の動機などをテーマに作成した文章を400字程度にまとめ、住所・氏名・生年月日・電話番号・職業を明記のうえ、建設管理課へ郵送または持参してください　▽締切　9月3日（月）　▽選考の結果は応募者全員に通知します。

問　建設管理課（内564）。

海老名むかしばなし

第468話　郷土の里うた・里ことばなど(十一)

海老名を詠んだ俳句

国分寺の　礎石黙して　秋の雨　白帆

たんぽぽ咲く　野に天平の　瓦かな　李雨

前者は本名山崎胸吉（一八七五～一九五六）で、河原口の人。庵号金波楼、元海老名小学校教員。宗珪寺墓地に〈たどりつきて　いざ酒くまん　花の山〉の句碑がある。掲句は、大正十五年十一月発行の「教育界雑誌」より抄出。相模国分寺跡の礎石は黙して過去を語らず、秋雨に濡れそぼっているばかりだという、寂寥感を詠っている。

後者は本名児島鉚造（一八九二～一九七三）、大谷の人。早稲田大学卒、会社員から戦後地方公務員。「天平の瓦」とは、天平の世に建立された国分寺の屋根瓦のこと。たんぽぽが咲く国分の寺跡に、平瓦や軒瓦の破片が散乱している情景を詠んだもの。

二句とも、大切な遺跡が放任されていることを暗に嘆いていると思われる。しかし市では、現在寺域を歴史公園にすべく、すでに七重塔の基壇、中門跡、回廊跡等の整備を済ませ、着々とその計画を実施に移している。私が市のボランティアをしている会のある主婦は、〈天平の　史跡ひろびろ　冬ざくら〉と詠み、すっきりしてきた寺域の姿を活写してくださった。

木菟啼くや　清水寺の　薄月夜　宝舟

観音の　今日賑はしき　競馬かな　明星

宝舟氏の本名は井上英（一九〇三～一九四七）、後者とともに国分の人。明星氏の本名は不詳。両句とも大正十二年の春、国の重要文化財である千手観音を本尊とする水堂への奉額句。「木菟」とはふくろうの一種で、この場合「青葉木菟」。四月下旬に渡来し、夜低い声でホーホーと寂しく啼く。戦前はよく聴いたが今は耳にしない。環境の変化であろう。

後者は、観音の縁日の三月十七日に草競馬があり、近郷近在の人で賑わったことを、端的に詠んだものである。惜しいことに、この年の九月一日起きた関東大震災以後は廃止になり、有名だった郷土の伝統行事も消え去ってしまったのである。

孕帆の　近ふ通るや　夏座敷　鮮浦

長閑さや　孕帆昇る　相模川　金風

鮮浦氏は上郷の人。庵号宝玉斉、他は不明。句は、明治十四年五月五日付けの「小田原道了大菩薩、国分村水堂観世音両奉額」と題する句集よりの抄録。

金風氏は本名その他不詳。掲句は、大正十年二月二十日発行の「海老名青年団誌」から採る。二句とも、相模川を上下する順風満帆の舟を素材にしている。かつて相模川が舟運の便に利用されていたことを、うかがわせる作である。

相模国分寺建立の第一の条件は、景勝の地ということであった。これに適ったわが市だけあって、信仰の山・大山（阿夫利山）や霊峰富士を素材にした作品が実に多い。その中から、

麦踏むや　阿夫利を右に　左にし　かほる